

ギャラクシーランドの
魔法使いとひとつなぎ
の木の葉の龍珠！！

ばかうどん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

別の惑星から島ごと迷い込んできた謎の島。「ギャラクシーランド」

そこに麦わらの一味、Z戦士、木ノ葉隠れの忍者達が集い、まだ見ぬ敵や謎。そして、島の謎へと踏み込むストーリー。

目次

ワンピース！ドラゴンボール！NARU
TO！ひとつなぎで忍者で願い玉
!?!?

1

ドドドンとビツクリ!? 謎の人物クラヤ登
場！

5

第2話 ワクワクの銀河の島!? 謎の青年
蒼葉登場！

11

ワンピース！ドラゴンボール！NARUTO！ひとつなぎで忍者で願い玉!?!?!

宇宙からブラックホールと呼ばれる時空の穴が開き、巨大な物体が飛来してきた。

学者達はその飛来してきた物はなんなのか研究に励んだ。

結果、飛来してきた物は、「島」だということがわかった。

宇宙の島。とは一体なんなのであろうか？

序章

ーサウザンド・サニー号ー

天気は快晴。船で見張り番をしていたチョッパーが何を訴えるように船内を駆け回る。

チョッパー「おい、ルフィ!!みんなー!!島だぞ!!島が見えたぞ!!」

フランキー「アウ!!そいつアスパー!!だぜ!!」

ロビン「今度の島は…どんな島なのかしら…ふふ…楽しみね」

ロー「だから寄り道をしてる暇は……」

ナミ「まあまあ、いいじゃないのトラ男!あんたも疲れてるでしょ?少しくらい!!」

サンジ「んナミすわーん!!俺も疲れてるよー!?すごい疲れてるなー!!だから俺にも言つてー!」

ナミ「うっさい。」

ブルック「相変わらずですなサンジさんは…」

サンジ「るせエブルック!!てめエにだきや言われたくねエ!!」

ウソップ「お前も大概だけだな…」

ゾロ「そつとしておいてやれ:脳内が花畑なんだこいつは…」

サンジ「あア!」

ルフィ「にしし:ししーまーだー!!野郎ども!!上陸だー!!」

ー木ノ葉隠れの里ー

ボルト「ええー!?そんな危険な島に!」

ナルト「ああ、お前に行つてもらいたい。それによ、今回サラダ達は別任務だ。だから、お前にとって、一番いい小隊を組んだ。」

ボルト「一番…いい小隊…?」

ナルト「ああ。」

ガチャっ!

ドアが開く

サスケ「…行くぞ、ボルト。」

ボルト「サスケのおっちゃんだつてばさ!?!」

ナルト「それに、今回は、俺も行くつてばよ!」

ボルト「父ちゃんも!?!あ、あと一人は…」

サクラ「私。まだまだ現役よ?」

ボルト「サクラおばさん!」

サスケ「行くぞ。」

ナルト「ああ!!」

ー西の都ー

悟空「…む…なんかすげー気を感じんな…それに…別のすげー気もそこに集まつてる…」

ベジータ「ああ…ふっ…面白い!!」

俺様が全員まとめて片付けてやる!!」

悟空「いい!?!ベジータ!悪いやつらじゃねえかもしんねえんだぞ!?!」

ベジータ「フン!!」

悟飯「なら、僕も行きましょう。」

悟空「悟飯!?おめえいいんか!?勉強は!」

悟飯「僕も、自分の手で守れるものは守りたい…それだけです。」

悟天「僕達も行く!!」

トランクス「そうだけ!!置いてけぼりなんて嫌だ!!」

ベジータ「フン…好きにしろ」

飛び立つ

一体悟空たちが言っていた謎の気。とは何なのか?

ナルトが言っていた危険な島。とは何なのか?

なぜ、サニー号の前に突如として現れたのか?

つづく

ドドドンとビツクリ!? 謎の人物クラヤ登場!

― 謎の島 ―

ルフィ「うひょー!! なんだアここ!!」

サンジ「……宇宙……?」

島に入った時から、異次元に飛ばされたように、どこかへ消えたルフィとサンジとウソップ。

ウソップ「お、おい……ゾロ達がいねえぞ!!」

サンジ「……まアナミさんとロビンちゃんは、あのマリモとフランキーがいるから、安全だ。それより、おれ達はどこに迷い込んだんだ……」

ルフィ「まーまー、いいじゃねエか。おもしろそうだし!! にしし!!」

―

ウソップ「おまえは気楽でいいな本当に!？」

サンジ「……しっ! 静かにしろ、誰かいやがるぜ……」

ルフィ「あア……」

見聞色の覇気ですでにルフィとサンジは察知をしていた。

そこに誰かがいることに

??? 「驚いたな……気配を消したつもりだが……」

サンジ 「おれ達の目は誤魔化せねエよ!!」

ルフィ 「なんだおめー?」

ウソツプ 「そ、そうだ!!この黒足が怖かったら教えやがれ!!」

サンジ 「…自分で戦え」

ウソツプ 「そんな!?サンジ君!」

クラヤ 「おれはクラヤ……この島の住人だ。」

そう言つて少年は腕を下ろすと同時に殴り掛かる

ウソツプ 「ぎゃー!!」

ルフィ 「ゴムゴムの…JET…銃!!」

どひゅん!

クラヤ 「(速い…!!)」

受けてクラヤはそのまま吹っ飛ぶ。そして宙返りをし、着地

クラヤ 「……何者だ…手が伸びたな…今…」

ウソツプ 「悪魔の実をしらねエのか?こいつ、ゴムゴムの実を食ったゴム人間なんだ

せ?」

クラヤ「ゴム……?人間??」

サンジ「まあ信じないのも無理はねエ。それより、教えてくれ、ここは一体……それに……おれたちの仲間がどこにいるのか」

クラヤ「……まさか、地球人が迷い込んできたって言うのか……?」

ルフィ「ちきゆう??」

ウソップ「なにいつてんだおめ……」

クラヤ「そういうことか……悪いが、もう仲間には会えないと思ってくれ」

ルフィ「え!?やだ!!なんでだ!!」

クラヤ「ここはそういう所なんだ、簡単にいえばここは、地球ではなく、遠い星。」

サンジ「な……!!」

ウソップ「いい!?そ、そんな!?そんなはずねエっ!!」

クラヤ「じゃあなぜ……ここには月が通らないんだ??」

地球には月が登るんだろ??」

ルフィ「月……」

サンジ「……」

クラヤ「信じる信じないは勝手さ。」

ルフィ「よし、ついてこう!!」

ウソツプ「おいおい…いいのかよ…」

ルフィ「ああ!!それに、出る方法ならなんとかあるさ!!

向こうには…まアゾロがいんだ!!大丈夫だろ!!」

サンジ「ま…フランキーやブルックもいる。まずは俺達が脱出するところからだな
!」

ルフィ「にしし!そうだ!!それに!冒険してーしなアー!!」

クラヤ「…面白いヤツらだ…」

ウソツプ「?」

クラヤ「なんでもねえよ、行くか。」

ザツ!!しかし、そこに何者かが現れる…

アーロン「シャハハハ!!待て!!」

ウソツプ「…!!お前は…」

ルフィ「なんだ、アーロンか」

サンジ「…まア…敵じゃアねえわな…」

クラヤ「…魚人族…!?こんな奴…この星には居ないぞ!」

サンジ「まア、俺たち同様に迷い込んだんだろ…ウソツプ、ルフィ、クラヤ、下がってろ、おれがいく。」

ア—ロン「あの時のコックか……」

ア—ロン「キリバチ…!!」

そう呼ぶと、2 mをとうに越す長さのノコギリを手にしたア—ロン。

クラヤ「…あの魚人…なんてパワーだ!!あのデカさのノコギリを…、！片手で!!」

ア—ロンがサンジに切りかかる！

しかし、その瞬間、サンジは見切ったように避けた

ウソツプ「いけーっ！サンジ!!」

ア—ロン「!?」

サンジ「羊肉シヨット!!」

ア—ロンに一撃を与えると

ア—ロンが吹っ飛んでいく

ルフィ「やるなー！サンジ！」

ア—ロン「…おの…れ…」

クラヤ「(強い)……あの魚人だって相当だったはずだ…)」

サンジ「朝飯前だぜ」スタツ

ア—ロンが霧のようになって消えた。

ルフィ「あり？消えたぞあいつ」

ウソツプ「逃げたか!!」

クラヤ「!? (どういうことだ!? 逃げてはいない…!?)」

サンジ「……………」

ルフィ「とりあえず、行こうぜ!! 冒険が待ってる!!」

ウソツプ「つたく……………」

サンジ「飯なら任せろ…」

ルフィ「サンジの作るメシはうめエからなア〜!!」

クラヤ「…………… (気のせいかな…)」

足を進める一向。

この島は一体なんなのか?そしてこのアーロンはなんなのか??
そして、島に迷ってしまった人間は出られるのか??

第2話 ワクワクの銀河の島!? 謎の青年蒼葉登場!

第一章

銀河の島上空

トランクス「ここ…からだよな…」

悟飯「けど…感じたことのない気です…地球人ではなさそうです。」

ベジータ「ふん…この俺様の知ったことか!!」

悟空「まあ、とりあえずいつてみつか!!」

悟天「そうだねお父さん!!」

すると、いきなり銀河の島から手が出てきて、皆が掴まれる

悟空「いい!!なんだこれ!!」

ベジータ「なに…!!」

悟飯「これは…」

クリリン「あれ?みんな!

悟空達じゃないか!!なんでこんなところにいるんだよー!おーい!!」

悟空「クリリン!!だめだ!!来んな!!」

クリリン「え?てかなんだその手…」

掴まれる

クリリン「いいー!?」

悟空「クリリン!!はああああ!!」

ドビューン!!シュインシュイン…

超サイヤ人になった悟空

超サイヤ人悟空「はあああ!!」

しかし、みんなが引きずられてしまう

ベジータ「…な!!カカロット!!変身をとけ!!」

超サイヤ人悟空「え…」

ベジータ「お前の力に反応してこいつの力もバカでかくなりやがった…!」

???「もう遅い。海賊「麦わらの一味」と共に…貴様らも餌にしてやる!!」

トランクス「餌!」

悟天「なにそれ!!僕達食べられちゃうの!」

真下

ゾロ「飛ばせ!フランキー!!」

フランキー「アウ!スーパ―任せな!!」

クード!!ヴァン!!」

ゾロ「……」飛んでいく

ゾロ「一刀流……居合……死・獅子歌歌!!」

悟空達を掴む手を斬る

悟空「……!?おめえは……?」

トランクス「かつこいいー!!」

ベジータ「……ちつ……余計なことしやがって」

ゾロ「御託はいい……さっさとその島に上陸するぞ!!」

悟空「え、あ、ああ!!」

悟飯「たしかに……それしかなさそうですね……」

悟空「おめえ、飛べんのか」

ゾロ「無理だ。」

ごーごーごーん

みんな「」

ゾロ落ちてくる

悟空「いいいー!?落ちちまうよあいつ!!?」

悟飯「キャツチする

悟天「さっすが兄ちゃん!!」

ゾロ「てか、なんでお前から飛べんだ…」

それより、おい!ナミ!!

!

ナミ「ゾロ…?」

ゾロ「おれア、ルフィ達を探しにこの島に行く…が、案内役としてついてこい!!」

ナミ「なんて勝手な…」

悟空「お、あの女も連れてけばいいんだな」

ナミ「なんでそうなの?!?!」

トランクス「よっ!!」ナミ掴む

ナミ「ちよつと!?!」

ロビン「ふふっ、行ってらっしゃい。ナミ」

ブルック「ゾロさんがいますから大丈夫ですよ」

ナミ「ブルックー!!?!ロビン!!」

チョップ「俺たちは留守番してるな!」

ナミ「あんた絶対怖いだけでしようが」

チョップ「う、うるせエっ!!」

こうして島に上陸した一向。

ゾロ「にしても…変わった島…だな…」

ナミ「あんたのせいでとんだ災難よ!!」

悟空「ま、まあいいじゃねえか…」（女ってみんな怖えんか…）」

ベジータ「（地球人の女は気が強い奴が多いとは…本当だったらしいな…）」

???「…待っていた…海賊、麦わらの一味の仲間だな？」

ゾロ「…!?あ、あア」

悟空「麦わらの一味…?なんだそれ」

ナミ「私達海賊団よ…」

蒼葉「俺は、蒼葉。蒼葉大夢（あおばひろむ）だ。

仲間のクラヤから、伝言を預かっている。麦わらの一味の仲間が来たらすぐに保護しろ。」

悟空「オラたちその麦わらの一味って奴じゃねえけど…」

ベジータ「ああ、俺たちはサイヤ人だ…」

蒼葉「サイヤ人…? 貴様らあの野蛮な戦闘民族だと…??」

悟空「べ、ベジータ!!」

ベジータ「ああそうだ…文句があるなら…やるか？」

ゾロ「…なんて血の気の多いやつだ」

ナミ「あなたには言われたくないでしょうよ…」

蒼葉「サイヤ人…!!」殴り掛かる

ベジータ「ほう…少しはできるようだな…」ガードしてる

ナツパ「無駄話はそれまでだぜ!!ベジータ!!」

悟空「あいつ…!!あの時の!!」

悟飯「ナツパ…!!」

ベジータ「…ナツパか、使えないクズがなんの用だ?」

ナツパ「…ベジータ…貴様だけは許さんぞ…」

ベジータ「ほう?どういう訳で生き返ったのかは知らんが…笑わせやがる。その程度の戦闘力で…」

悟空「…(おかしいぞ…なんか…感じられる気が…普通じゃねえ!!)」

悟空「ベジータ!気をつけろ!!」

ベジータ「なんだと?カカロット…この程度の奴に気をつけろだと…貴様、俺を馬鹿にしているのか!!」

悟飯「…?」

悟空「そうじゃねえけど…」

ベジータ「なら黙って見ていろ!!」

ナツパ「うおおおお!!」飛びかかる

ベジータ「くだらん…」ポーーーーピーーーー!!

ナツパ「!?ぐ、ぐおおおーーーー!!」

黒い霧のようになって消滅する

蒼葉「……!?な…なんだあれは(それにこの黒い霧は…)……」

悟空「あいつもサイヤ人さ…」

蒼葉「!?」

悟飯「はい…少しばかり、僕達とは違うサイヤ人ですが…」

蒼葉「……………」

悟空「オラ達に敵意はねえんだ!!わかってくれねえか!?!」

蒼葉「…なるほど、理解しよう。クラヤと残りの麦わらの一味を探しにこう」

悟飯「まずは戦力を確保、という訳ですね!」

トランクス「強いのかな!?!」

ナミ「解決したみたいね…いくわよ、ゾロ、ルフィたちをさがしに行くのよ…」

ゾロ「ぐーーーー!!」

ナミ「いや寝てんのかい!?!」

び
し
っ